

ミズキンバイの栽培管理マニュアル

1 はじめに

愛媛県特定希少野生動植物保護管理推進サポーター制度では、認定されたサポーターの皆様に、生物多様性センターが育成した苗鉢（4号ポット、直径12 cm等）を配布し、栽培管理していただきます。



自生地のミズキンバイ



ミズキンバイの開花

2 栽培管理

ミズキンバイは多年生の水草であり、茎、葉が漂う水辺を用意すれば、比較的容易に栽培管理することができます。また、夏の高温時にも旺盛に生育します。気温が下がる11月頃から地上部が枯れますが、3月頃から茎や株元から出芽がします。なお、年間の管理スケジュールは次のとおりです。

管理スケジュール

月		6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	
生育状況		生長期			落葉		停滞期				発芽、生長始め		生長期	
管理等	水管理	湛水状態(水替え必要)					湛水状態(水替え不要)				湛水状態(水替え必要)			
	施肥	施肥(1カ月に1度程度)									施肥(1カ月に1度程度)			
	病害虫	ハムシ類、ハスモンヨトウ												
	その他	草勢が強い場合は茎の整理									枯れた茎の除去			

(1) 準備していただくもの

樹脂製の容器（40×60 cm以上のプラ舟等）や敷地内にある池等が利用できます。深さは15～20 cm程度必要です。（深い場合は苗鉢の下にブロック等を置き、調整してください）植木鉢は赤玉土を用いて全体が水浸するようにしてください。



プラ舟とコンテナ

(2) 設置場所

容器等は、水替えや入水を行うことができる
日当たりが良い場所に置きます。

(3) 水の管理

容器等に水を入れ、ミズキンバイの茎や葉が
水面に漂うようにします。

※容器内の水が無くなり、鉢の土が乾いてしま
わないように注意してください。



容器にミズキンバイの鉢を設置

(4) 肥料の施用

3～10月に粒状の肥料（例：IB化成）を
月に1回、鉢の土の上に5粒程度置いてくだ
さい。

（広い容器や生育が良い場合は、10粒程度
置いてもかまいません。）



肥料（IB化成）

(5) 害虫防除

ハスモンヨトウの幼虫、ハムシ類の成虫に
よる葉の食害があります。

葉の食害が多い場合は、家庭園芸用殺虫剤
（ベニカスプレー等）で防除してください。



キタカミナリハムシ

3 栽培上の留意点

(1) 6月から10月頃の管理

夏期は、茎、葉の生育が旺盛です。

茎を全部水の中に漂わせるのは難しいの
で、茎の一部だけでも水に浸けてください。

水に浸いた部分から根が出ます。

繁茂しすぎる場合は、茎や葉を取り除い
てもかまいませんが、取り除いた茎、葉は
ゴミ袋等に入れて、処分してください。

※容器内に藻が発生しますので、定期的に藻
を取り除きます。また、2週間に1回程度、
水換えを行ってください。



夏期の旺盛な生育



11月頃から生育が衰え、地上部
が枯れ始める

(2) 11月から2月頃の管理

11月以降は施肥を行いません。寒くなるにつれて地上部（茎・葉）は枯死しますが、苗鉢は水に浸けておきます。鉢の土の表面が水に浸かるように時々水を足してください。

（水替えは不要です。）



2月下旬：茎や葉が僅かに見られる。

(3) 3月から5月頃の管理

冬期も暖かい場所であれば、小さな葉が出る場合もあります。3月頃から新芽が出始め、生育が活発になります。芽が出ず、完全に枯死した茎は取り除いてください。

また、出芽が始まる前(3月中旬頃)から施肥を始めてください。



冬季の状況

(4) 流出防止対策

ミスキンバイは、栽培地から流出した茎等の一部が生育し、定着する場合があります。今まで生育していない場所にミスキンバイが定着すると、生態系に影響を及ぼす恐れがあるので、次の点に注意し、水路や河川等への流出を防止してください。

- ① 取り除いた部分は、ゴミ等として処分する。
- ② 容器、池等で栽培する際、排水口に網（網目5～10 mm程度）を付け、ミスキンバイの断片があれば、ゴミとして処分する。

(5) 鉢替え、株分け

1年間で苗鉢内の根が繁茂し、鉢内は詰まった状態になります。大きいサイズの鉢に植え替えをするか、複数の鉢に株分けしてください。使用する用土は、水の中でも土の形状が保たれる赤玉土を使用してください。

栽培についての問い合わせ先

愛媛県立衛生環境研究所生物多様性センター 東温市見奈良 1545 番地4

TEL089-948-9678 メール seibutsu-cnt@pref.ehime.lg.jp